

【食物にエネルギーを与える GP 農法】

草は大地から地球の地磁気をもらい、自然の中で何十種類の草が集まって生息しています。よく見ると草が生い茂っている所の土は柔らかくて、ふかふかです。これは土壤微生物が多いからだと考えられます。草によって、そこに生息する微生物と作る酵素が違ってきます。いろいろな草が集まっていることで、微生物のバランスが取れているのです。草は、微生物の作った酵素を根から取り入れて、それをエネルギーとして成長しているのです。

GP 農法で作る畑は、この草の環境を再現しています。気が高く、土壤微生物が多くてバランスが取れている環境です。30 種類以上の草を発酵させて、できた酵素を土にまき、さらには発酵した草をボカシとして土にすきこみます。

この結果、GP農法で作った野菜はエネルギーが高く、抗酸化作用が高いのです。これらの野菜は鮮度が落ちると、草と同様に枯れます。

漢方のバイブルの書、神農本草経に出会い、上薬、中薬、下薬のことを調べて行くうちに、気の存在は、目には見えないが確かにあること、人間が生きていく上でとても大事なものであることに気がきました。上薬の効能には、気を増す、若がえるとあります。

GP 農法は、その気をセラミックに移して、慣行農法で土壤微生物が弱っている畑に埋めます。そして畑の周りに生えている雑草、ありとあらゆる雑草にエネルギーをかけて発酵させ、草エキスを作って散布します。発酵して残った雑草は、畑にすきこんで肥料にします。すると、約3か月で畑が土壤微生物でいっぱい元気な畑に甦って来ます。